

チーム K 活動報告書

はじめに

2013 年秋から A 君という重度の障がいを持つ西成高校を卒業する生徒の進路について大学への進学を検討することになりました。ご両親の努力もあり、様々な大学の門をたたきながら検討を重ねる中で、交通の問題や通学時間、ヘルパーさんとの調整など多くの課題を乗り越えなくてはなりません。ご両親からの相談もあり、関係するメンバーを集めて、チームをつくり、皆さんの意見を調整しながら進めることになりました。

重度の障がいを持つ生徒が大学に行くことの困難さや多くの人の支援がいることそんなことを実際に行いながら、大学そのものが重度の障がいを持つ生徒を受け入れるための準備や体制、考え方等を大学として検討していただけることが障がいを持つ人に対する社会の「合理的配慮」とはなんなのかを社会に示せることだと思っています。また、同学年の学生さんやボランティアとしてかわりを持っていただける学生さんなど多くの方がかわっていただけることで、A 君の新たな人との関係を築ければ考えています。財団のご支援をいただき本当にありがとうございました。

第 7 回チーム K の会議 2014 年 3 月 27 日

4 月からスタートする A 君の近畿大学への入学手続きや 4 月 6 日の入学式、7 日からの授業。大阪府立大学授業科目等について検討を行いました。一般財団法人ヒューマンライツ教育財団の支援を受けての事業の開始となりました。重度の障がいを持つ A 君が大学へ進学？進学と言っても一般の学生ではなく、近畿大学は聴講生として、府立大学は科目履修生としての入学です。

二つの大学の違いは、近畿大学には科目履修という制度が大学に無いために聴講生ということになっています。

大学にしてもこのように重度の障がいがある生徒を受け入れることについてはおそらくこれまでなかったことだと思います。何とか、A さんのご両親が様々な努力をして入学にこぎつけたことを受けて、チーム K という形で様々な支援を行い、楽しい大学でのキャンパスライフを送れるように応援したいと思っています。

第 8 回チーム K 会議 2014 年 5 月 8 日

4 月に始まった大学での生活について、通学から授業、昼食、大学での様子などを振り返りました。その後、次の課題について検討しました。

近大 ○同じ授業を受けている学生さんとの交流を具体的にどうするのか

○授業前の休憩をどうするのか

府大 ○ノートテイカーさんの役割

○V ステーション（ボランティアさんの集まる場所）との交流

○障がい学生さんとの交流

第9回 チームK会議 2014年6月5日

この会議では前回から今回までの大学での様子の報告と聴講や科目履修にあたっての大学への要望等について、また、夏休みの過ごし方などについて検討しました。

第10回 チームK会議 2014年7月3日

この会議ではこの間のA君の様子と聴講、科目履修にあたっての要望、夏休みの過ごし方等についてみんなで検討しました。

特に夏休みの過ごし方については、海水浴へ行こうということで学生さんの参加を促すポスターや告知、行き先等検討しました。

第11回 チームK会議 2014年8月6日

前回からこれまでのA君の様子と前期の振り返り、後期の科目選択と介助体制それと夏休みのイベントとして具体的な海水浴の参加等具体的な内容について検討した。

第12回 チームK会議 2014年10月8日

前回会議以降のA君の様子と後期授業の様子と支援体制と夏休みに行った一泊の海水浴の報告を行った。

第13回 チームK会議 2014年12月4日

前回会議以降のA君の様子と来年度の支援体制について、来年度前期の科目履修の選択、研究会の立ち上げ、シンポジウムの開催、報告書の作成の分担等を検討したが、現実にはシンポジウム、研究会、報告書等の分担などは具体的にできていない。また、ビデオ、DVDの作成も検討したが具体的には出来ていない。

第14回 チームK会議 2014年2月3日

前回会議以降のA君の様子と2015年度の支援体制、近畿大学、府立大学の来年度の科目選択についての検討ですが、近畿大学については、科目履修制度の導入について検討が学内であったようだが、今年度については見送りになったようで引き続き聴講生としての立場での受講となりました。また、大学の側からも先生方との協議や学生さんとの懇談会のようなことも考えていただいているようです。

第15回 チームK会議 2014年3月13日

前回会議以降のA君の様子と近畿大学の受講科目について府立大学の受講科目についても検討しました。あと、3月16日に近畿大学にお邪魔をして大学の事務局と障がい学生

の受け入れについて中心になってくれる先生と大学についての要望等を聞いていただける時間をとっていただきました。

また、西成高校の B 先生が西成区の福祉人権活動推進協議会の学習会で A 君が西成高校で過ごした3年間と大学に行くことの意味について2月27日に市民交流センターで講演をしていただきました。(別紙資料)

終わりに

1年間の A 君の大学受講は様々なことを教えてくれました。最も印象的だったのは、A 君の思いを第一にどんな状況であっても大切にすることが大事だということ。これは参加しているすべての人たちが共有できる思いではあるが、A 君のように重度の障がいがあるために本当に A 君の意思が確認できるのかどうか、毎日寄り添っているヘルパーさんであっても不安になることもあるようで、笑っていたり、怒っていたり、嫌がっているようなことは確認できるが A 君の思いに寄り添うことの困難さはぬぐえない。医学や科学の発展でいずれ A 君のような重度の障がいある人の思いが確認できるようになればと思います。

しかし、確実に日本の社会は障がいをもつ人に対する「合理的配慮」が出来る社会へと変わって行こうとする営みは始まったのかなと感じています。チーム K の取り組みがそんな社会に少しでも良い影響をもたらすことが出来よう今後も進めて行きたいと思っています。今回、ヒューマンライツ教育財団の助成金をいただけたことに感謝しています。

チーム K 一同

ヒューマンライツ教育財団
代表理事 富田一幸 様